

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 2270600451 | |
| 法人名 | 有限会社 エルダーハウス | |
| 事業所名 | グループホーム千草 | |
| 所在地 | 静岡県三島市徳倉3-6-16 | |
| 自己評価作成日 | 平成25年10月3日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/infonmtionPublic.do?JCD=2270600451&SCD=320&POD=22 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人しずおか創造ネット |
| 所在地 | 静岡県葵区千代田三丁目11番43-6号 |
| 訪問調査日 | 平成25年10月31日(木) |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一つ屋根の下で一緒に暮らませんか！」グループホーム千草は、既存の住宅でお年寄りスタッフが家族的な関係で暮らしております。介護が重度化しても、その時々を楽しみを創ってあげる事。毎年恒例の行事と日々の体調に合わせて外出をしております。また、毎日の食事づくりにも力を入れています。スタッフは、料理のベテラン揃いです。皆さんの美味しい笑顔が嬉しくて頑張っております。神経内科専門医である広小路クリニック 木野紀先生の訪問診療 訪問歯科診療をはじめ、三島医師会訪問看護ステーションの連携体制で24時間365日の医療体制も充実している為、ターミナル期 における尊厳ある看取りもしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、三島市徳倉の山合いにあり、緑に包まれた静かな環境にあります。建物は経営者であり管理者でもある施設長が生まれ育った自宅を改築したもので、自らの親達を介護するように支援を密にしたいと努めています。事業所では、各地の火災事故を契機に、いち早くスプリンクラーの設置、近隣との火災通報装置のネットワーク化を進めました。また、介護度の高い利用者が多いのですが毎日の食事は重要だとして、努めて米飯の普通食を提供し喜ばれています。そして当事業所では「本人、家族が望むような死を迎えられるよう最大限の対応」という重度化及び看取りの指針を掲げ、医師、訪問看護師と家族との話し合いや連携を深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「一つ屋根の下で一緒に暮らしませんか」の理念を掲げ、明るく安定した生活が送れる様に、管理者と職員は、その理念を共有し実践している。 | 「一つ屋根の下」という理念は、経営者であり管理者でもあり、自ら生まれ育った住宅を活用して介護しているところから、家族同様、自分の親の介護と同じ心を持って尊厳のある共同生活を送ってもらっています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 管理者の幼少のころから慣れ親しんだ地域の為、地域の一員として日常的に交流している。地域の行事。防犯パトロール。ふれあい祭り等に参加し地域の一員として活動 交流している。利用者の散歩で地域の人達と挨拶やお話を、日常的に行っている。 | 徳倉三丁目自治会に参加し清掃、ゴミ管理なども受け持ち、防犯パトロール隊にも協力しています。神社の秋祭りでは、ミコシが訪問してくれました。経営者が生まれ育った地域であり日常的な交流が続けられています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の人の理解や支援とその方法を地域の人々に向けて活かしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での意見交換が、サービス向上に活かされている。ホーム隣組や隣組の民生委員、包括支援センター、介護相談員、家族と居間一杯になり、意見 情報等で何時も時間が、あっという間に過ぎてしまう。同じ食事を味わってもらう。(手打ちそば 富士山おみくじ等) | 毎回、地域包括支援センターなど各分野の人が集まり活発な話し合いを進めています。会議では情報交換、介護の勉強の話題が多く、来年からはホームの増床計画の検討に入る予定です。また職員のスキルアップも計画され社会福祉士、介護福祉士にアタックすることなどが紹介されています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者と日頃から密な連絡を取り協力関係を築いている。地域包括センター グループホーム連絡会等情報交換でホームの運営やサービスの質の向上 地域との交流に役立っている。 | 三島市では、グループホーム連絡協が活発に活動し、施設の空き情報の公開、行政の情報などが伝えられたり、災害時の備品、備蓄品などが紹介されます。また、ホームの増床問題は、三島市に要望書を提出してあります。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアを代表者 職員が正しく理解し取り組んでいる。 | 身体拘束をしないケアをしています。昼食時だけは、帰宅願望の強い利用者のため玄関の施錠をしています。外出時の見守りは、1対1以上の人員配置をして、万が一に備え、血圧計、薬、保険証等を携帯し予備車も用意しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学び、実践している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見制度に付いて学び、活用支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関して十分な説明と利用者や家族に理解・納得を図っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を開催し、家族 職員 医師 看護師 包括支援センターケアマネ等が出席して意見や質問で交流会がある。また家族の訪問が多い為、日頃の生活を常に家族が把握している、要望意見は迅速に職員と話し合い実行している。 | 家族の訪問が多いことや、メール連絡も行われ即座に問題解決をしているとしています。家族からの要望では「歩行時の捻挫などの心配」があるようです。家族会は、年1回外食を楽しみながらターミナルケアの講座を聞いたり質疑応答をして学んでいます。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者兼管理者と職員は、毎朝の申し送り朝礼で、意見交換がある。また、毎月25日には、全員で意見交流を実施し、反映させている。 | 毎朝の朝礼で個々の介護情報などの申し送りをして改善点は即座に取りいれています。施設長と職員の間は、利用者数6名の小規模施設のためか意思の疎通が図られています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各自が向上心をもって働ける職場環境や条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者(管理者)は、法人内外の研修に進んで参加出来る機会を設けている。職員1人ひとりの技術の向上に取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者(管理者)は、職員が同業者との交流を通じてサービス向上に取り組んでいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居するにあたって必要な時間を充分にかけ本人との信頼関係を築いてから入居していただき、不安を減らし、安心してホームでの生活ができる様にしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に時間をかけ家族との信頼関係を築いている。困っている事、不安 要望を理解し、蜜な関係を築いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期対応の見極めと支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「一つ屋根の下で暮らす」をモットーに共に過ごし支えあう関係を築いています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は、家族と共に本人を支えあう関係にある。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人や場との関係維持を支援している。墓参り 結婚式 外出 法事等に職員が付き添って、今までの交流が途切れ無い様に支援している。 | お孫さんの結婚式には利用者さんも正装して参列し喜ばれました。しかし利用者も気分が急変することもあり、気苦労はあるようです。また、選挙の投票に同行し、地域との関係継続にも気配りをしています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が支えあい生活している。(声掛け 見守り 励まし) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後もこれまでの関係が続き、親戚同様の行き来がある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 今までの生活暦を大切に、本人の希望 意向を聞き本人重視に努めている。 | 施設長は、利用者が入所する前に複数回、自宅を訪問し、なじみを深めています。事前に体験入所も勧めています。また職員にも、利用者目線の介護、その人に合った対応をするよう教育しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの生活の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の心身状態に合わせた一日の過ごし方をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員全員でモニタリングし、介護計画を作成している。また、医師 看護師 ケアマネ 介護職 利用者 家族が参加の担当者会議を実施 毎月25日に個々の担当者が経過報告をして全員で課題 ケアのあり方を見直しをしている。 | 毎月の報告会では、ケアの経過や医師の訪問診療の結果などが担当者から報告されます。それを受けて計画書の見直しが検討され、日々の報告と合わせて改善策が生まれ実行されていきます。また家族とのかかわりも密で、双方の報告も多いようです。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の介護日誌(個別の記録)を職員間で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源を把握して、安全で豊かな生活ができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は、本人 家族等の希望を大切に適切な医療を受けられるように、医療と事業所の密な関係を築いている。 | 月1回の往診では、事前に利用者の情報、事後の情報が交換され密接な医療連携が出来上がっています。同じように歯科および訪問看護でも情報の共有が出来上がっています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師との協働 蜜に報告 相談 連絡をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院 退院時のためにも、医療機関との密な関係が出来ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」について話し合いをしている。また医師 訪問看護師 を交えて家族と終末期対応等話し合う機会が毎年あり、また重度化した場合は、蜜に連絡を取り合い協力して看取りを行っている。 | 当事業所では「本人、家族が望むような死を迎えられるよう最大限の対応」という重度化及び看取りの指針を掲げ、医師、訪問看護師と家族との話し合いや連携を深めています。また事業所では、職員の教育と心のケアの気配りにも配慮しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変 事故発生に備えて、日頃から訓練 研修を実施している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回 消防設備関係者と訓練をする。また11日を災害の日と決め、食事の支度等電気ガスを使わない非常時体制の1日を過ごして非常時に困らない生活を日頃から身に付けている。 | 年2回の防火訓練は、事前に予告しない訓練をしています。また2年前の北海道ストーブ火災を契機に全館にスプリンクラーを取り付けたり(法定ではいらぬ)近隣と共同で火災通報装置のグループ化を進めています。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人らしさを尊重するケア「パーソンセンタードケア」の10か条を居間 職員のトイレに掲示常に利用者さんに寄り添い、その人の尊厳を思いやるケアに取り組んでいる。 | 「パーソンセンタード ケア」は故トム・キッドウッド(英)が提唱した認知症ケアの考え方で、当事業所では利用者に寄り添い、業務中心でなく、人中心のケアを目指しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の思いや希望の表出や自己決定の支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとりのペースに合わせた過ごし方を支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の好みや希望を聞きながら、季節ごとの手作りの献立を提供している。手打ち蕎麦など、家族近所の人を交えて食事を楽しんでいる。お誕生日には、手作りのケーキを皆で作ってお祝いする。重度化しても最後まで皆と同じ様に食べられる様に工夫している。 | 利用者は平均で介護度4.33 年齢80才以上ですが、米飯の通常食が中心です。食材は、生協、八百屋から仕入れ、手作りで提供しています。そして食べるが一番楽しいといわれたいと事業所では話しています。また晩酌は、特に禁止してないようです。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養のバランスを考え、工夫と創意の食事を提供している。水分量も食事以外にも何時でも飲めるようにテーブルにセットしてある。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 三度の食事毎 口腔ケアを実施している。訪問歯科診療を受け、口腔ケアの指導を受け口腔内の清潔保持を励行している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンに合わせ排泄の自立支援を実施している。 | 各人の排泄注意項目表でチェックしています。日中は紙パンツとパット、夜間はオムツを着用させています。入所時は、寝たきりの人が、補助すれば歩けるようになり、排便のリズムがわかるようになったこともあります。 | 排便の支援は、介助者に困難さを強います。根気よい排便誘導、排便の困難な要因のチェックの強化それに個別の排便についての気づきの支援に期待します。 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防の為 食事や飲み物の工夫 運動等個々に合わせて予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 1人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、個々にそった支援をしている。入浴以外にも足浴をしたり、温泉に行くこともある。 | 全介助者が多く、入浴を嫌います。そうした中、最低でも週2回の入浴に努めています。また外出時には、温泉などに立ち寄り、入浴を楽しむようにしています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は、薬の目的や副作用、用法、容量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認、報告を蜜に実施している。薬が変わった時は、医師から説明があり、報告をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ひとりひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換の支援をしている。温泉 ドライブ 買い物 河津さくら 富士霊園の花見 芦ノ湖の花火大会 毎日の散歩等々 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 毎日 犬を連れて散歩の他、河津のさくら 富士霊園の花見 箱根芦ノ湖の花火 御殿場のイルミネーション 温泉 外食等その時々の状態を看ながら外出を支援している。 | 日頃は、ホームのまわりの道を、犬を連れて散歩を楽しんでいます。遠出となると、血圧計、薬、保険証などの準備が必要ですが、利用者の喜ぶ顔が見たく時々遠出の支援をしています。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 1人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話 手紙のやり取りができるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | まわりを山で囲まれているので、朝は、鳥のさえずりで起き、山の木々や庭の植木を居間から眺め季節の移り変わりを感じます。また、照明は、食事 夜は暖色にしたり、天気の良い日は、明るく気持ち、落ちこまないようにしている。風邪をひかないように湿度は特に気をつけている | ホームは、環境に恵まれた地域にあります。玄関先には、お花、お茶、習字など習い事の日程が貼られ作品が展示されています。広間には床暖房、二重サッシ化が施され快適な環境のようです。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間における1人ひとりの居場所の工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。利用者の馴染みの家具を置き、家族の写真や自分で作った人形を飾っている。テレビ 時計 机を置き、スタンドで本を読んでいる。 | 住み慣れた環境を忘れないように、なじみの品々を持ち込んでもらう支援をしています。自分で作ったパッチワークや人形を飾っています。また或る方は、自分の葬儀の時に読み上げて貰うよう、今から文章を書き、準備しているそうです。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 1人ひとりが、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | | |